

平成24・25年度機械系学科海外研修旅行の取り組み

田中 裕一* 毛利 存*
宇ノ木 寛文** 山下 徹*

A Report on Overseas Study Tours for Engineering Students

Yuichi Tanaka *, Zon Mori *, Hirofumi Unoki **, Tohru Yamashita *

At Kumamoto National College of Technology, Yatsushiro, students usually have study tours in their 4th grade. They visit engineering facilities including factories, plants, construction sites and so on as well as cultural heritages. Nowadays, an increasing number of KOSENs send their students abroad as their study tours, though students of our campus did not have any chance to go abroad for their 4th year trip. Therefore, the department of Mechanical and Intelligent Systems Engineering planned overseas study tours and their first tour to Singapore was held in 2012. In 2013, students are supposed to visit Singapore followed by Taiwan. It is highly expected that this kind of visit contributes a lot for students to acquire global points of view.

キーワード：国際交流，海外研修旅行，工場見学，シンガポール，台湾

Keywords：International experience, Study tour in foreign countries, Factory Visit, Singapore, Taiwan

1. はじめに

2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指し、アジアをはじめとした諸外国に対する知的国際貢献等を果たすことにも努めていくとした文部科学省策定の「留学生30万人計画」に基づき、高専機構第2期中期目標においても、教員や学生の国際交流への積極的な取り組みを推進することが掲げられている。

こういった流れの中、鹿児島高専が代表校となり申請された「高専・企業・アジア連携による実践的・創造的技術者の養成」なる九州沖縄地区の9高専による連携事業（以下、9高専連携事業とする）が、平成24年度大学間連携共同教育推進事業に採択された。事業期間は、平成24年度から平成28年度までの5年間である。熊本高専も北九州高専と共に基幹校として位置づけられており、約900の会員企業を有する九州経済連合会と連携することにより、インターンシップ等における事業推進に取り組むことになっている。

これまで、熊本高専八代キャンパスにおいては、アメリカ語学研修、シンガポール夏季英語キャンプ、オーストラリア夏季語学研修、シンガポール研修旅行等の学生派遣や、北京航空航天大学北海学院短期留学生、シンガポール・ポ

リテクニク海外インターンシップ生等の受け入れを行ってきた。熊本キャンパスにおいては、長年に渡って4年生の研修旅行で海外を訪れている実績があり、学校長、国際交流委員会等から八代キャンパスでも4年生の海外研修旅行を検討するよう打診の機会が次第に増えていた。

平成22年11月に、当時の宮川校長、国際交流委員他から、平成23年3月に行われることになっていた八代キャンパス・シンガポール研修旅行（希望学生のみ）の引率要請があった。4年海外研修旅行に行く可能性がある2年または3年担任のいずれかで、海外研修旅行に行ける学科から行ってもらいたいとのことであった。

以前であれば、会社の海外出張は、年齢・スキル共に会社内で中堅以上の仕事ではないだろうかと思われていた。ところが、近年学校に帰ってきた卒業生から話を聞くと、決して英語が得意とは言えない、卒業後間もない若い卒業生が中国等へ出張するケースが増加していると感じられるようになっていた。また、高専在学中に何となく閉塞感のある学生にとっては、海外研修が何らかの刺激を与える機会になるのではないだろうかとの期待も感じるようになっていた。筆頭著者自身、シンガポールには行ったことがなかったので、まずは現地に行ってみなくては何も分からないと思い、研修旅行に引率として参加することにした。海外研修旅行引率に必要なことを肌で感じる機会にもなるのではないかと思われた。

本報では、一クラス単位の海外研修旅行引率のために同行した2つの研修旅行、研修旅行のために行った準備、そ

* 機械知能システム工学科

** 共通教育科

〒866-8501 熊本県八代市平山新町2627

Dept. of Mechanical and Intelligent Systems Engineering,
2627 Hirayama, Yatsushiro-shi, Kumamoto, Japan 866-8501

表1 引率した3つのシンガポール研修旅行

年度	内容
22	八代キャンパス・シンガポール研修旅行（希望学生15名）
23	熊本キャンパス情報工学科4年シンガポール研修旅行
24	機械電気工学科4年シンガポール研修旅行

表2 最初の研修旅行に臨んだ経緯

年月日	内容
平成22年(2010)11月	平成23年(2011)3月 八代キャンパス・シンガポール研修旅行(希望学生のみ) 引率(残り枠1つ)の要請有. 4年海外研修旅行に行く可能性がある2年または3年担任のいずれかで、行ける学科から行ってもらいたいとのこと.
平成23年(2011)1月	研修旅行説明会(学生向け) 航空券代 キャセイ航空(CX) ¥59,985 宿泊 Singapore Polytechnic (SP) スタッフ・アパートメント 参加者確定(学生15名+教員2名) IAC: 2名, 1BC: 1名, 2C: 3名, 2B: 6名, 3B: 2名, 3E: 1名(女子11名+男子4名) 引率: 森内先生, 田中裕一
平成23年(2011)3/8~15	八代キャンパス・シンガポール研修旅行

表3 平成22年度シンガポール研修旅行の旅程

日程	内容
平成23年(2011)3/8(火)	学校集合(6:00)→(スクールバス)→福岡空港着(8:00) 福岡空港(10:25)~香港空港(中国)~チャンギ空港(シンガポール19:45) キャセイ航空→(レンタカー)→宿泊先
3/9(水)	日本企業2社を訪問(マレーシア) 現地までの往復にレンタカーを利用
3/10(木)	シンガポール歴史文化施設見学(国立動物園, 国立博物館) 公共バス及び電車を利用
3/11(金)	シンガポール歴史文化施設見学(市内官庁街, セントーサ島見学, 国立ナイトサファリ) 公共バス及び電車を利用
3/12(土)	SPシンガポール・ポリテクニク・キャンパス見学, シンガポール・ポリテクニクの学生との交流, ホームステイ(可能ならば) 公共バス及び電車を利用
3/13(日)	自由行動(市内見学, 買い物など) ホームステイの家族あるいはシンガポールの学生と一緒に行動
3/14(月)	宿泊先発(7:00)→(レンタカー)→チャンギ空港(10:10)~香港空港~福岡空港(20:55) キャセイ航空 福岡空港発(21:30)→(スクールバス)→学校着(23:30), 解散

れから、実際に平成24年度に実施した研修旅行と平成25年度計画・準備中の研修旅行の概要について述べる。初めて一クラス単位の海外研修旅行を引率するにあたり、八代キャンパス、熊本キャンパスの教職員はもちろん、九州沖縄地区の高専関係者からたくさんの貴重な情報を頂いた。引率に必要と思われたことに関する記録を残し、今後、国際交流に携わられる方々にとって何らかの参考になれば幸いである。

2. 初めての機械系学科海外研修旅行引率のための準備

表1は、引率した3つのシンガポール研修旅行を示す。平成22年度の一回目では、学生と一緒に海外研修旅行をするということがどうということなのかを肌で感じた。次に平成



(a) SP スタッフ・アパートメント

(b) 部屋の様子



(c) 施設見学

(d) 隣接駅から見た SP キャンパス



(e) 国立動物園

(f) セントーサ島

図1 平成22年度シンガポール研修旅行の様子

23年度の二回目では、一クラス単位を動かして海外研修旅行を引率するために、実際何が必要なのかを間近で見ため、熊本キャンパスの研修旅行に同行させて頂いた。そして、いよいよ自分達が主となって、海外研修旅行を引率したのが平成24年度のことである。

2.1 平成22年度八代キャンパス・シンガポール研修旅行

表2は、最初の研修旅行に臨んだ経緯をまとめたものである。前述の通り、引率の要請を受け、研修旅行説明会に参加したが、その時初めて、自分の所属学科の学生が一人もおらず、加えて男子が少なく女子が多いことを知り、少なからず戸惑いを感じた。この後は、特に準備を手伝うこともなく、もう一人の引率である森内先生にほぼ全てをお任せして、不安を抱えながら研修旅行当日を迎えた。

表3は、平成22年度シンガポール研修旅行の旅程を示す。また、図1は研修旅行の様子を示す。宿泊はシンガポール・ポリテクニク(以下、SPとする)の立派なスタッフ・アパートメントに格安の料金で泊めてもらうことができ、大きなキャンパスの施設の見学もさせていただいたが、日程については変更もあり、翌日以降の日程がよく分からない日もあった。例えば、第2日目に予定していたマレーシア企業見学は、安全上の理由からか、それとも手間がかかるからか、いつの間にか計画されていなかったようだった。また、ホームステイについても実現しなかった。こういったことについては、やや大らかな印象を受けた。

しかしながら、SPの学生達が、空港への出迎えに始まり、深夜スタッフ・アパートメント到着後の食事の案内、その後の食事や観光等、朝から夜まで毎日大変親切にしてくれた。SPの学生の中には、ジャパニーズ・カルチュラル・クラブ（JCC）に属していて日本文化に親しみを持っていたり、日本語が堪能な学生もいたりして、英語、マンダリンに加えて、複数の言語を理解していた。言語系が非常に強く、開放的かつ友好的で、親日的な印象を受けた。国の教育システムが違っていると、こうも変わるものかと驚かされた。学校の公式な接待等の活動に参加することにより、その学生のポイントとして、カウントされる仕組みのようなものが存在するという話も聞いた。

この研修旅行では、機械系学科が見学できるような会社を目星をつけるという目的もあった。結論から言うと、日系の工場で見学できそうなところはいくつかあるようだが、時期が重なると受けてもらえないこともあるので、前もって根回しが必要である。

そして忘れられないのは、3.11東日本大震災のニュースを国外で聞くことになったことである。限られた情報しか得られない中で、ショッキングな映像を見て、帰りたいと漏らす学生もいたが、どうにもならない状況であった。SPの学生も大変心配してくれて、皆何とか気を取り直し、残りの日程を過ごした。

いろいろなことが重なったことで、通常の交流よりも一層、学生同士に特別な友情が芽生えたように思われた。最後の夜に、ずっと付き合ってくれたお礼のプレゼントを渡して盛り上がり、空港まで見送りに来てくれて、出発直前まで別れを惜しんだりしていた。我々が帰国した後も様々な手段でやり取りがあり、プライベートで来日したSP学生もいて、再会を喜びあった。

2.2 最初の引率旅行から帰国後、着手したこと

東日本大震災で世の中が落ち着かない状況であったが、時間を逆算すると、いくつかの問題を一つ一つクリアする必要があった。表4に、帰国後、着手したことを簡単にまとめてある。まず、学生への説明である。シンガポールに行く前から、4年次の工場見学は、海外になる可能性があるからと伝えていた。帰国後、学生達に撮ってきた写真を見せて、おそらく良い体験になるので連れて行こうと思う旨の話をした。

次に、熊本キャンパスおよび九州内の高専の海外研修旅行に関する情報収集を行った。特に熊本キャンパスは全学科が海外研修旅行に行っていたため、事務や知り合いの先生等を通じて、訪問国、日程、費用、旅行代理店、企業を含む訪問先等の情報をもらい、検討を進めた^{(1), (2)}。表5に、平成23年度熊本キャンパスの海外研修旅行の概要を示す。

保護者への説明にもかなり気を使った。表6に、その概要を示す。費用積立増額については、学務課、宮本機械知能システム工学科長（兼 機械電気工学科長）とも十分に打ち合わせをした上で、2回の説明会を開催し、保護者の自宅に直接電話をかけて、了承を得た。

表4 帰国後、着手したこと

<p>学生への説明</p> <p>熊本キャンパスおよび九州の高専の海外研修旅行の情報収集</p> <p>訪問国、日程、費用、旅行代理店、企業を含む訪問先等の検討</p> <p>保護者への説明</p> <p>費用積立の増額</p>
--

表5 平成23年度熊本キャンパスの海外研修旅行

<p>① 情報通信工学科</p> <p>時期：10月9日～13日</p> <p>国名：シンガポール</p> <p>研修場所：ダイキン・シンガポール社、テマセク・ポリテック</p>
<p>② 電子工学科</p> <p>時期：10月18日～21日</p> <p>国名：韓国（ソウル）</p> <p>研修場所：ユビキタス展示館、現代自動車工場、統一展望台、重要文化財等</p>
<p>③ 情報工学科</p> <p>時期：10月4日（火）～10月8日（土）</p> <p>国名：シンガポール</p> <p>研修場所：Temasek Polytechnic、ヤクルト・シンガポール、シンガポール国立博物館、NEWater Visitor Center、セントーサ島 Song of the Sea 観光</p>
<p>④ 電子制御工学科</p> <p>・シンガポール、マレーシア</p> <p>時期：9月14日～10月1日</p> <p>国名：シンガポール、マレーシア</p> <p>研修場所：Temasek Polytechnic、マレーシア工場見学、NTU (Nanyang Technological University)</p> <p>・フィンランド</p> <p>時期：8月中旬～8月末 or 9月中旬～9月末</p> <p>国名：フィンランド（ヘルシンキ、オウル）</p> <p>研修場所：メトロポリア応用科学技術大学、エストニア・タリン（世界遺産）、オウル応用科学大学見学、現地企業見学、ロバニエミ（サンタクロース村）見学</p> <p>※旅費（情報通信 H22年度）は、112,000円</p> <p>積立額は、どの学科も年額（1～3年）24,000円で、4年で金額調整</p> <p>熊本キャンパスを筆頭に、有明、佐世保、久留米、北九州、鹿児島、大分高専からも様々な情報提供あり</p>

表6 保護者への説明

<p>平成23年4月 保護者懇談会 説明会</p> <p>費用積立増額の依頼（全家庭に電話および文書送付）</p> <p>2年前期～3年前期：15,000円×3=45,000円（納入済）</p> <p>3年後期：15,000円（従来予定）⇒ 35,000円（合計 80,000円）に変更提案</p> <p>4年前期：15,000円（従来予定）⇒ 35,000円（合計 115,000円）に変更提案</p> <p>平成23年9月 保護者懇談会 説明会（阪急交通社からも説明）</p> <p>※積立の組み替えに手を付け、3M保護者の了承が得られたので、2MI および1MI 保護者についても同様に説明し、了承が得られた。</p>
--

学内の環境が整ってきたところで、次に心配されたのは、海外へークラスを引率すること自体の教員側の経験不足であった。当時の宮川校長より、熊本キャンパスの海外研修旅行に同行することを勧められ、調整の結果、熊本キャンパス情報工学科4年の研修旅行に旧機械電気工学科から2名

表7 熊本キャンパス情報工学科4年 シンガポール研修旅行

日	時間	移動手段	活動内容
10/4(火)	5:40 10:15 15:25 夜	貸切バス SQ655 貸切バス	熊本高専集合、バスで福岡へ 空路、シンガポールへ(約6時間) 到着後、ホテルへ 市内レストランで夕食
10/5(水)	午前 午後	貸切バス	ホテルで朝食 企業見学(ヤクルト・シンガポールを予定) レストランで昼食 学校交流会(Temasek Polytechnic) 班別自主行動
10/6(木)	午前 午後	貸切バス	ホテルで朝食 シンガポール国立博物館見学 班別自主行動(現地の学生同伴予定)
10/7(金)	午前 午後 夜	貸切バス	ホテルで朝食 施設見学(浄水施設NEWaterを予定) 班別自主行動 レストランで夕食 SONG OF THE SEA(セントーサ島での光と音のショー)観光
10/8(土)	1:00 8:10 11:30	SQ656 貸切バス	空路、帰国へ(約6時間) 福岡空港到着後、バスで熊本高専へ 解散

(シンガポール航空 (SQ) を使用, 同行引率: 毛利, 田中裕一)



(a) ヤクルト・シンガポール見学 (b) テマセク・ポリテクニク訪問



(c) NEWater 見学 (d) Song of the Sea

図2 熊本キャンパス情報工学科4年 シンガポール研修旅行の様子

の教員が共同引率の形で同行させてもらえることになった。

2.3 平成23年度熊本キャンパス・情報工学科4年シンガポール研修旅行

平成23年(2011)10月4日(火)～8日(土), 熊本キャンパス情報工学科4年シンガポール研修旅行に引率として同行させていただいた。旧機械電気工学科から2名の教員が参加するに伴って, 熊本キャンパス側の引率教員を通常の名から3名に減らしていただいた。

表7に, 熊本キャンパス情報工学科4年シンガポール研修旅行の旅程を示す。企業見学は, ヤクルト・シンガポールで, 学校訪問は, テマセク・ポリテクニク(TP)であった。図2に研修旅行の様子を示す。TP訪問では, 日本人の先生がいらっしやって, 相手をして下さった。やはり日本語が通じる方が先方にいらっしやると, 安心感が違う。ケータリングも準備されており, 至れり尽くせりだった。

双方の学生によるプレゼンテーションが準備されていて, 熊本キャンパスの学生のポテンシャルの高さを感じた。中には細かい気配りを見せてくれる学生もいて, 大変感心させられた。

旧機械電気工学科の教員2名は, 一時別行動をとり, シンガポール・ポリテクニク(SP)のSchool of Digital Media and Infocomm Technology(以下, DMITとする)を訪問し, 来年度訪問受入の約束を取り付けることができた。その際, 訪問の目標とその方法については, 予めネイティブのチェックを受けた文章を用意した。また, 前回シンガポールを訪れたときに, 交流した先生や学生達とも会うことができ, 有意義な時間を過ごすことができた。

2.4 熊本キャンパス研修旅行のまとめと平成23年度中に行ったこと

海外でークラスを動かすやり方を間近で見ることができたのは大きな収穫で, 熊本キャンパスの先生方には大変お世話になった。

訪問企業調査については, 就職開拓企業訪問, 学内研修講師等の関係から, マキノアジア(牧野フライス)が早くから候補に挙がったので, それを軸に進めることにした。

旅行会社の決定については, 特に最初は手堅く, 熊本キャンパス情報工学科4年の場合と同じ, 阪急交通社に決めた。日程の決定, 飛行機の予約等, 国内旅行と比べると, スケジュールをかなり前倒して進めなくてはならない。

また, SP学生が熊本を訪れたので, シンガポールでお世話になった学生達とおもてなしをした。

そして, いよいよ機械系学科海外研修旅行のための事前指導案について, 著者らで協議を開始した。内容としては, 八代キャンパス短期留学中のSP学生の成果報告会聴講, パスポート取得手続き時期, しおり作成の方法等について, 意見を交換した。

3. 機械系学科海外研修旅行のための事前指導

4年進級時にクラスで取ったアンケートでは, 旅行は(国内がよい13人・国外がよい20人・どちらでもよい10人)という結果であった。八代キャンパス初の学科ークラス単位の海外研修旅行を有意義なものとするためには, 学生の意識を高めていくことが必要であると感じられた。

表8に, 研修旅行の事前指導内容を示す。ホームルームや進路セミナーの時間を使い, 本校を訪れていたシンガポール・ポリテクニクの学生との交流会や, 旅行のしおりの作成を行った。図3にSP留学生発表会聴講の様子を示し, 図4にしおり作成の様子を示す。しおり作成では, まず, しおり作成委員を募ったところ, 4名の申し出があり, 彼らと著者らでしおり作成委員会を構成して, スケジュールや分担等を協議した。そして, クラスの学生を5名程度の班に分け, それぞれ割り当てられた部分を全員で分担して執筆してもらい, 最後にしおり作成委員でまとめて冊子を作成した。作成は, 5月初めから7月下旬にわたって行い, 最終的に50ページ弱の冊子となった。

表8 研修旅行の事前指導内容

八代キャンパス短期留学中の SP 学生の成果報告会聴講 パスポート取得手続き開始（春季休暇中がベター） 研修旅行のしおり作成 しおり作成委員会 （学生4名，毛利，宇ノ木，田中裕一） クラスで班分けし，全員で分担 SP 訪問中，DMIT におけるプレゼンテーションの準備指導 学級委員長・副委員長経験，海外滞在経験， 海外インターンシップ参加等を考慮して発表者選抜



図3 SP 留学生発表会 聴講（2012.04.12）



図4 しおり作成



図5 プレゼンテーション披露（2012.09.28）

これとは別に，パスポート手続きの指導や旅行保険手続きなどを並行して実施した。

また，SP 訪問中，DMIT においてプレゼンテーションを行ったのだが，図5に示すように，その準備指導もおこなった。発表者は，学級委員長・副委員長経験，海外滞在経験，海外インターンシップ参加等を考慮して選抜した。

4. 平成24年度機械電気工学科4年シンガポール研修旅行

平成24年度の研修旅行の日程を表9に示す。また，図6に研修旅行の様子を示す。シンガポール航空福岡便が週5便しかないことや，費用の制約もあり，昨年度の熊本キャン

表9 八代キャンパス機械電気工学科4年 シンガポール研修旅行

Oct 2 (Tue)	Arrive: 15:25 (Flight # SQ655) Dinner: 18:00 Hotel check-in: 19:45 (Quality Hotel Singapore) Call over: 20:30
Oct 3 (Wed)	National museum of Singapore: 10:00 Lunch: 11:30 Cultural Exchange Program at SP: 13:00 13:00 - Welcome address, ice-breaking and brief presentations by SP and KNCT students 13:45 - DMIT School Facility Tour 14:30 - Brief campus tour 16:00 - City tour guided by SP students 20:30 - Curfew of KNCT students
Oct 4 (Thu)	Makino Asia Pte Ltd: 9:30 (Lunch in staff dining room of Makino Asia) Free time: 13:00 Call over: 21:00
Oct 5 (Fri)	Hotel check-out: 7:30 NEWater Visitor Centre: 9:30 Free time: 12:30 Call over & Dinner: 19:00 Check-in at Changi Airport: 23:30
Oct 6 (Sat)	Depart: 1:10 (Flight # SQ656) → Arrive (Fukuoka) : 8:20, Oct 6



(a) シンガポール・ポリテクニク発表 (b) マキノアジア社訪問



(c) 現地学生と市内観光 (d) 帰国直前のチャンギ空港にて
 図6 八代キャンパス機械電気工学科4年 シンガポール研修旅行の様子

パス情報工学科4年の旅行日程とほぼ同じ日程となった。引率は，旧機械電気工学科の教員4名，英語科教員1名，日本人添乗員1名，現地ガイド1～2名という構成で行った。

企業見学は牧野フライス株式会社の現地法人マキノアジア社，学校訪問はシンガポール・ポリテクニクであった。

シンガポール・ポリテクニクではクラスの代表者4名による学校紹介，日本と熊本の紹介がパワーポイントのスライドを使って英語で行われた。この発表に際しては，前日まで英語科教員らによる事前指導が行われた。次に，学内の施設見学を行い交流会は終了した。ここで昨年来お世話になっているシンガポール・ポリテクニクの学生諸氏と合流し，班ごとに各々観光地を巡ることとなった。

ここで、教員は学生達を宿泊ホテルまで引率・誘導するグループ2名と次年度訪問の約束を取り付けるグループ3名の二手に分かれて行動した。DMITの先生に頼んで、機械系のSchool of Mechanical and Aeronautical Engineering（以下、MAEとする）を訪問させていただき、来年度の訪問受入を要請した。先方によると、佐世保高専が来校したときにはSP学生と日本人学生でグループを作らせ、プロジェクトをやらせていて、日程は調整の必要があるが、概ね受入可との回答であった。

3日目に訪れたマキノアジア社では日本語による説明のほか、日本食の昼食を提供して頂き、学生は慣れない海外旅行の中で一息つけたような印象を持った。

帰国後のアンケートでは、海外旅行に対する興味が（大いに増えた13人、増えた22人、あまり増えていない3人、全く増えてない2人）という結果であった。海外研修旅行の意義はあったかに関しては、（大いに思う8人、思う24人、あまり思わない5人、まったく思わない3人）という結果でそれなりに意識は向上したことがうかがえる。また、図7に研修旅行前後の国際交流への興味・関心の変化を示し、図8に英語コミュニケーションへの興味・関心の変化を示す。見方によっては当然のことと言えるのかもしれないが、興味・関心が増していることが分かる。自由記述の意見としては、食事に関する不満が多く挙げられた。自由時間に関しては多すぎる、あるいは少なすぎるという意見が半々となり、少ないというグループは現地学生と積極的に交流

表10 国際交流に関する学内FD研修会の要領

日時：12月4日（火）17時頃より（教員会終了後開催）
場所：大会議室
題目：八代キャンパスの国際交流の現状と今後の展望
内容：その1 「平成24年度機械電気工学科4年シンガポール研修旅行の取り組み」 機械知能システム工学科 田中 裕一
その2 「全国高専の国際交流の現状と八代キャンパス」 共通教育科・国際交流委員 宇ノ木 寛文

できたグループ、多いという意見に関しては、もっと工場見学を充実させて欲しいというグループに大別できる。

4年における見学旅行先を考える際、海外旅行として見聞を広めることを重視するか、就職準備としての企業訪問を重視するかというバランスとりが難しい面は否めない。インターンシップに積極的に行かせたり、3年までの工場見学等の内容を充実させたりするだけでは、就職準備の不安を払しょくするのは難しいかもしれない。4年の忙しさや国際交流を進める意義等を考えると、海外研修旅行を3年以下で実施し、4年では一泊二日や二泊三日の国内会社・工場訪問をすることも検討してよいのではないと思われる。以前、低学年でたくさん工場見学をしても、現場で働く人の様子等を見て、勉強の意欲が減少する者がいて、必ずしも良い影響ばかりではないとの意見もあった。学年や時期によっては、消化不良を起こして、効果が上がらないケースもあり得る。会社が置かれている環境も変化するため、どういった会社・工場をどの学年で見せるかについては、時々では全体的な検討をした方がよいのかもしれない。

平成24年12月には、国際交流委員会より、国際交流に関する学内FD研修会での発表を依頼され、八代キャンパスで初めてのークラス単位の海外研修旅行について、立案段階からの経緯を含めてその概要について報告した。表10に研修会の要領を示す。

平成25年3月から4月の春季休業期間には、SPの学生達がプライベートで続々と友人と共に熊本を訪れ、熊本市内、阿蘇のみならず、八代キャンパスまではるばるやって来てくれた。東日本大震災直後は、原発の放射線の影響を心配して、来日を控えていた家庭もあったようだが、そういう不安もだいぶ払拭されてきたのかもしれない。

5. 平成25年度機械知能システム工学科4年シンガポール・台湾研修旅行

平成25年度の海外研修旅行の計画については、前述の研修会での報告後、校務が決まった、遅くとも前年の平成24年12月下旬には動き出していたと思う。平成24年度と同じ日程では、ロボコンの九州沖縄地区大会が八代キャンパスで開催される関係で、完全に重なってしまい、プロコンの全国大会や学生会選挙等の日程も意識しなくてはならない状況で、最初から日程の調整に随分手間取った。9月は、夏季休業期間中でかえって実施しやすいかもしれないと思われたが、ハイシーズンで航空料金が高く、Singapore F1

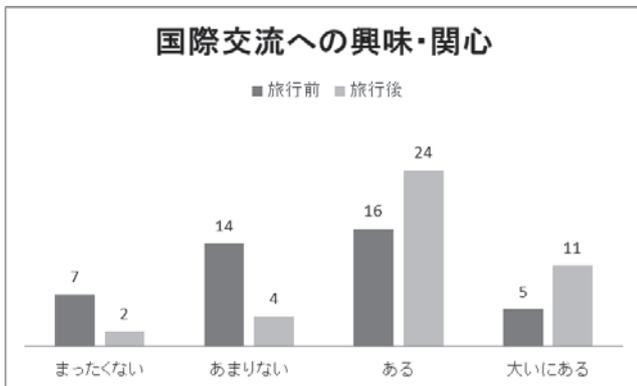


図7 国際交流への興味・関心の変化

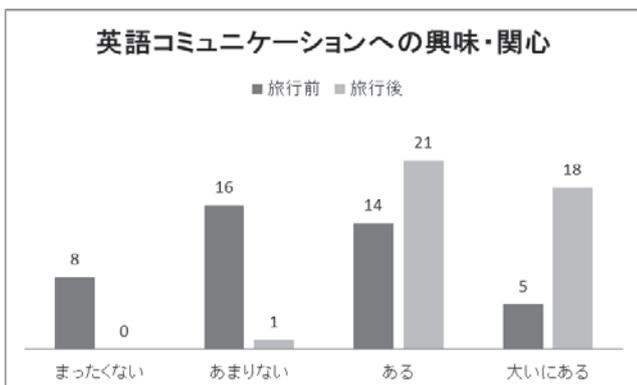


図8 英語コミュニケーションへの興味・関心の変化

表11 平成25年度シンガポール・台湾研修旅行日程

2013年度 シンガポール・台湾研修旅行 5日間						
月日 (曜日)	都市名	現地時間	交通機関	備 考	食事	
1 10 / 21 (月)	八代キャンパス集合	05:20		学校集合		朝: -
	八代キャンパス発	05:30	貸切バス	陸路、福岡空港へ		
	福岡空港着	08:10		到着後、搭乗・出国手続きへ		昼: 機内食
	台北空港着	10:10	CI-111	空路、台北空港へ		
	台北空港発	11:25		到着後、乗り継ぎへ		夜: 機内食
2 10 / 22 (火)	シンガポール	09:30~11:00	貸切バス	ホテル出発		朝: ホテル
	シンガポール	11:30~12:20		シンガポール企業研修 (ダイキン・シンガポール予定)		
	シンガポール	13:00		昼食		昼: レストラン
	シンガポール	17:00		夕食		夜: -
	シンガポール			夕食後、SP短期留学発表会 (各班で夕食)		
3 10 / 23 (水)	シンガポール	07:20	貸切バス	陸路、空港へ		朝: ホテル
	シンガポール空港着	08:20		到着後、搭乗・出国手続きへ		
	シンガポール空港発	10:25	CI-752	空路、台北へ		昼: 機内食
	台北空港着	15:10	貸切バス	入国手続き後、台北市内へ		
	台北	夜		夕食後、ホテル・チェックイン		夜: レストラン
4 10 / 24 (木)	台北	朝	貸切バス	陸路、桃園へ		朝: ホテル
	桃園	午前		台湾企業研修・飛宏科技股份有限公司 (予定)		
	台北	正午		*飛宏科技股份有限公司は世界トップ3位以内のパワーサプライ *飛宏科技股份有限公司の研修ができない場合は、新竹サイエンス *飛宏科技股份有限公司の研修ができない場合は、新竹サイエンス *飛宏科技股份有限公司の研修ができない場合は、新竹サイエンス *飛宏科技股份有限公司の研修ができない場合は、新竹サイエンス		昼: レストラン
	台北	午後		昼食		
	台北	夜		夕食後、ホテル・チェックイン		夜: レストラン
5 10 / 25 (金)	台北	10:30	貸切バス	陸路、空港へ (途中、再出発)		朝: ホテル
	台北空港着	12:30		到着後、搭乗・出国手続きへ		
	台北空港発	13:55	CI-118	空路、桃園へ		昼: 機内食
	桃園空港着	17:05		到着後、入国手続き・税関申告等		
	桃園空港発	18:00	貸切バス	陸路、学校へ		夜: -
八代キャンパス着	20:30			到着後、解散		

クオリティ ホテル シンガポール Quality Hotel Singapore ★★★

[ADD] 201 Balestier Road, Singapore, 329926, Singapore
 [TEL] 65-63559988
 [FAX] 65-62550998
 [URL] http://www.choicehotels.com

【客室総数】 230 室

クオリティ ホテル シンガポール(旧 ロビンソン インターナショナル ホテル)、現地の濃いエリアにあり、訪れる人々は、シンガポールの人々の生活様式や文化に浸りつつ、伝統と現代性が共存する古き良き時代を体験することができます。クオリティー ホテルは、少な目の予算で、活気あふれるこの島都市の中心に滞在する旅行者に最適なホテルです。



☆ホテル外観 (イメージ)



☆コピー (イメージ)

麒麟商務会館 (ギャラリー ホテル) Gallery Hotel ★★★

[ADD] No.59 Chongyang Road, Nangang Dist., Taipei, 11560, Taiwan
 [TEL] 886-2-26517770
 [FAX] 886-2-26513370
 [URL] http://www.galleryhotel.com.tw

【客室総数】 230 室

MRT 板南線の昆陽駅から徒歩約 15 分、重陽路に位置するホテル。明るいヨーロッパ調の建物。館内中央は最上部まで吹き抜けになっており明るく開放感がある。客室はゆとりがあり機能的。全室バス・シャワー付きに加えウォシュレットも標準装備されているなど日本人にはうれしい。車での南港展覽館や内湖科学園區へのアクセスがよくビジネスでの利用も多い。かつて市内にあった老舗ホテル「麒麟大飯店 (現在すでに閉鎖)」と同じ経営。松山空港へは車で約 15 分、桃園空港へは約 1 時間。



☆ホテル外観 (イメージ)



☆コピー (イメージ)

図9 宿泊ホテル情報

と重なるとホテル代が急騰してしまうことや、台風シーズンはなるべく避けたいということもあって、日程を決めるのがなかなか難しかった。結局、学生委員会に、学生会選挙の日程をずらしてもらって、平成25年10月21日(月)～25日(金)にした。

実は、日程はこちらの都合だけで決めたのではなかった。今回、2社以上の見積もりをとることにして、最終的

には前回の阪急交通社を含む2社に競ってもらった。当初、シンガポールからマレーシア・ジョホールバルへの越境を旅程に含めるようリクエストしており、旅行料金の見積もりは積立金額の総額を絶対に超えないように頼んでいた。旅程が変わると、日程も変更がありえるわけだが、大体、希望金額に収まってきたところで、阪急交通社からシンガポール・台湾の提案があった。表11にその日程を示し、図9に宿泊ホテル情報を示す。筆頭著者は台湾に行ったことがなかったので、大変魅力的に感じ、予算も収めるとの約束で、シンガポール・台湾で平成25年度は進めることになった。ここまですを前年度3月末までに決めた。

4月11日には、SP短期留学生発表会を学生に聴講させた。図10にそのときの様子を示す。質問が出ないときのために、念のため、数名当てていた程度で、ほとんど事前準備をしていなかった。どうなるだろうかと少し心配していたが、予想以上に積極的に質問が出て、発表会後も学生同士で自然に人だかりができて漫画やアニメの話で会話が弾むなど、思いのほか障壁が低くて感心させられた。参加した先生方も同じような感想を持たれたのではないと思う。

4月26日(金)のクラス別保護者懇談会の時間内で、阪急交通社の担当者も招いて、シンガポールおよび台湾への海外研修旅行についての説明会を開催した。内容は、日程、費用、パスポート、海外傷害保険についてであった。春季休業中にパスポートを取得するよう指導があっていたはずであるが、実際にはかなりの学生が未取得で、前期中に各々取らせる必要があることが分かった。数か月かけて、パスポートのコピーと旅行申込書を提出させ、代理店担当者に郵送した。時間がかかった理由には、パスポートに関する業務が各役場などに移ったこともあり、今後注意が必要である。

5月15日より、しおり作成委員会をスタートさせた。今回、学生からの申し出がなかったので、こちらから指名した。結果的に、学生4名と担任および副担任の計6名で構成した。委員長を互選し、議事録は学生が交代で記録した。



図10 SP短期留学生発表会聴講



図11 報告会の様子（2013.07.02）

7月3日までに計3回の会合を持ち、前期末試験前に一旦まとめ、夏期休業期間中に、学生本人から保護者に説明してお願いしてもらうことにした。図11に、7月2日のHRで実施した、しおり作成のために各班が調べた情報を報告する会の様子を示す。実は、平成25年度機械知能システム工学科4年生は新学科一期生であり、従来の機械電気工学科の学生と比べると、やや多様性が大きいのではないと思われる。また、留年生である機械電気工学科4年生および情報電子工学科4年生も同じ教室にいる混合学級となっている。専門科目棟-1の校舎改修に伴い、共通教育科目棟に教室が変更となっていて、学生指導はなかなか大変であった。加えて、「ほこ×たて」出演メンバー4名全員がこのクラスの所属で、収録等もあって大変な状況だった。4年生は、インターンシップに行くものも多数いるため、全体として指導はかなり大変であったが、副担任と協力しながら、なんとか前期を終えて、夏期休業期間に入ることができた。インターンシップでは、昨年度に続き、タイの企業に行くものが出て、その他にもタイ・バンコクでの学生交流に参加したものや、他学科でも外国に訪問したものがいたようだ。しおり作成委員の一名は、シンガポール・ポリテクニクの英語キャンプに参加しており、徐々に、海外が身近なものとなってきているような気がする。

前年度の研修旅行後、学科会議で、国内の工場見学が不足しているとの指摘があったので、学生に希望を聞き、平成25年9月24日（火）ダイハツ九州大分（中津）工場日帰りバス旅行を計画した。夏期休業期間中で、寮生は帰省しているため、全員の参加は難しかったが、希望者を募ったところ、22名の参加者が集まった。図12にその時の様子を示す。実家が学校から遠隔地にあり、どうしても交通手段が確保できないなどの理由で、最終的な参加者は15名であった。ほとんどの学生がインターンシップを経験した後で、進路を決定する4年後期が近づいていることもあり、見学時間は短かったが、参加者の意識は高かったように感じた。前述のように、このクラスは、混合学級でもあり、留年生は海外研修旅行に同行しないので、親睦を深めてもらおうという意図もあった。

執筆時点では、シンガポール・台湾旅行直前の準備と指導が必要な段階となっている。学生達と協力し、関係教職員および旅行代理店と連携して、一つ一つ準備を進めたい。ちなみに、今回の引率教員は、機械知能システム工学科教員4名および技術職員1名で、技術職員分の渡航費は、9高



図12 ダイハツ九州大分（中津）工場見学（2013.09.24）

専連携事業から支出される。9高専連携事業経費からは、前述のタイにある企業のインターンシップ経費の一部も支出される予定である。

6. おわりに

熊本県内のいくつかの普通高校では海外修学旅行を実施しているようである。熊本高専八代キャンパスの機械系の学生が、高専本科時代に単なる海外旅行をするだけに終わらず、海外の会社や工場を見学したり、海外の教育機関を訪問して同年代の現地学生と交流したりしておくことは、彼らの将来にとって何らかの財産になるのではないかと思います。海外研修旅行の実施を目的とした国際交流に取り組んできました。

本報の取り組みを準備・実行するに当たり、最初の引率旅行をご一緒させていただいた、八代キャンパスの森内先生、平成23年度熊本キャンパス・情報工学科4年シンガポール研修旅行に同行させていただいた、村上先生、小松先生および島川先生にはいろいろとお世話になりました。有明、佐世保、久留米、北九州、鹿児島、大分高専の関係者の方々からも様々な情報提供を頂きました。そして、当時の宮川校長をはじめとする、本校の関係教職員に大変お世話になりました。皆様のおかげで、一連の海外研修旅行を無事に終えることができました。ここに厚く御礼申し上げます。

（平成25年9月25日受付）

（平成25年12月3日受理）

参考文献

- (1) Wesley Publishing Co. PTE LTD：日本・シンガポール企業ディレクトリー 2011.
- (2) Wesley Publishing Co. PTE LTD：日本・マレーシア企業ディレクトリー 2010.